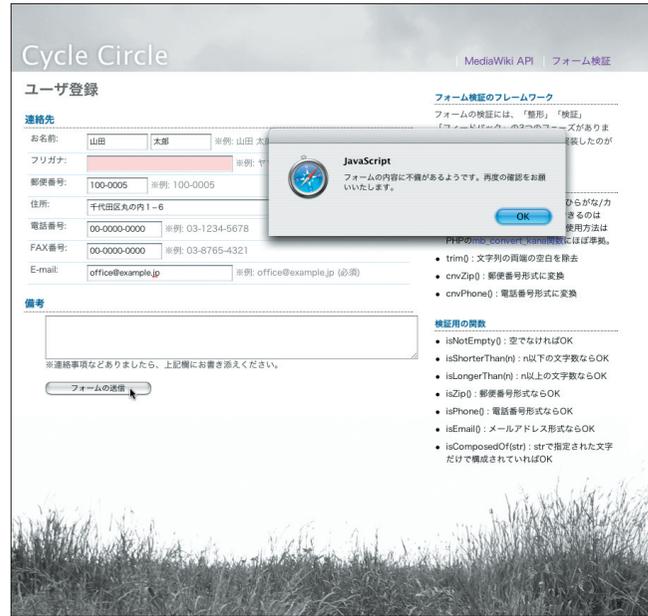


SECTION 08

フォームに入力されたテキストを検証&整形するフレームワーク

Internet Explorer
6 7 8
Firefox
2 以上
Safari
2 以上



制作・文：河村 葵 (CogniTOM Academic Design)

フォームで情報を入力してもらった際、全角／半角やひらがな／カタカナなどの文字種まで、すべてを正確に入力してもらえとは限りません。フォームに入力されたテキストを徹底的に検証し、自動的に文字種を統一して、入力の不備をユーザーに通知するフレームワークを作成してみましょう。

制作のポイント

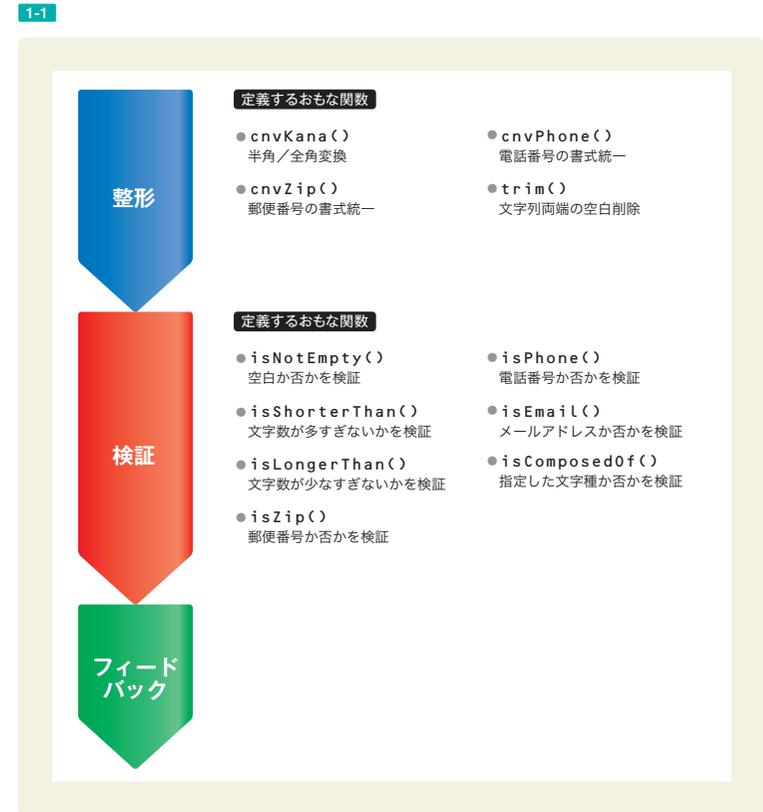
- ・半角／全角、ひらがな／カタカナ変換が簡単に
- ・Stringクラスを拡張し、入力検証に利用
- ・整形、検証、フィードバックを実現するフレームワーク

使用のおもなコード

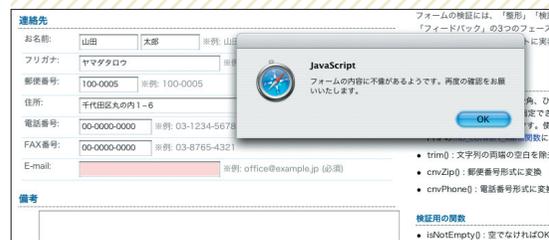
```
indexOf()
charAt()
replace()
slice()
test()
```

■ フォーム検証の準備

01 フォーム検証については、おもに3つのフェーズに分けて考えるとわかりやすいでしょう。まず、半角／全角を統一したり、電話番号の書式を揃える「整形」。次に、正しい形式で入力されているか調べる「検証」。最後に、どこを修正すべきかユーザに示す「フィードバック」です **1-1**。これらのフェーズを踏まえたうえで、JavaScriptでコーディングしていきます。



TECHNIC 1 入力の不備をダイアログで通知



フォームの必須項目が入力されていない場合にテキストフィールドをピンクに変えてアラートを表示します。

TECHNIC 3 使いやすいフレームワーク化

```
fields = {
  'last_name': {
    'convert': function(val){ return val.cnvKana('asKV').trim(); },
    'validation': function(val){ return val.isNotEmpty() && val.isS; },
    'feedback': function(ok, elm){ elm.style.backgroundColor = ok ?
  },
  'furigana': {
    'convert': function(val){ return val.cnvKana('sKVC').trim(); },
    'validation': function(val){ return val.isNotEmpty() && val.isC; },
    'feedback': function(ok, elm){ elm.style.backgroundColor = ok ?
  },
}
```

フレームワーク化することで、組み込む際の記述が英語の文章のように読みやすくなります。

TECHNIC 2 入力情報の自動整形

お名前: 山田 太郎 ※例: 山田 太郎 (必須)

フリガナ: ヤマダ タロウ ※例: ヤマダ タロウ (必須)

郵便番号: 100-0005 ※例: 100-0005

住所: 千代田区丸の内1-6 ※例: 千代田区丸の内1-6

電話番号: 03-1234-5678 ※例: 03-1234-5678

FAX番号: 03-8765-4321 ※例: 03-8765-4321

お名前: 山田 ヒロミ ※例: 山田 太郎 (必須)

フリガナ: ヤマダ ヒロミ ※例: ヤマダ タロウ (必須)

郵便番号: 100-0005 ※例: 100-0005

住所: 千代田区丸の内1-6 エムティエヌ9F ※例: 千代田区丸の内1-6

電話番号: 03-1234-5678 ※例: 03-1234-5678

FAX番号: 03-8765-4321 ※例: 03-8765-4321

全角数字／半角数字や全角カタカナ／半角カタカナ／ひらがななど、統一したい文字種に自動的に変換します（上→変換前・下→変換後）。

02 「form_validation.js」、「test1.html」、「test2.html」、「test3.html」、「test4.html」のファイル名で5つ空のテキストファイルを作成し、配置しておきましょう **2-1**。文字コードはUnicode (UTF-8) にしておきます。これらのテキストファイルにJavaScriptや検証用のHTMLコードを書いていきます。

